

〔論 説〕

中国におけるインターネットの普及と地域間格差

文 言

1. はじめに

ここ数年, 中国ではインターネットの利用者が急速に増加してきた。CNNICの調査によると, 2004年末まで中国のインターネット人口は9400万人に達しており, アメリカに次いで世界第2位となっている。

しかし, これらの数字は中国13億の人口を考慮すれば, 決して多くとは言えず, 中国の中でも, 地域間のIT格差がかなり存在している。たとえば, 北京や上海などの大都市では, 先進国に迫るインターネット人口普及率を持っているが, 遅れている西部地域ではその数十分の一しかない。このような地域間のIT格差は各地域の経済状況と教育状況と大きく関係しているであろう。

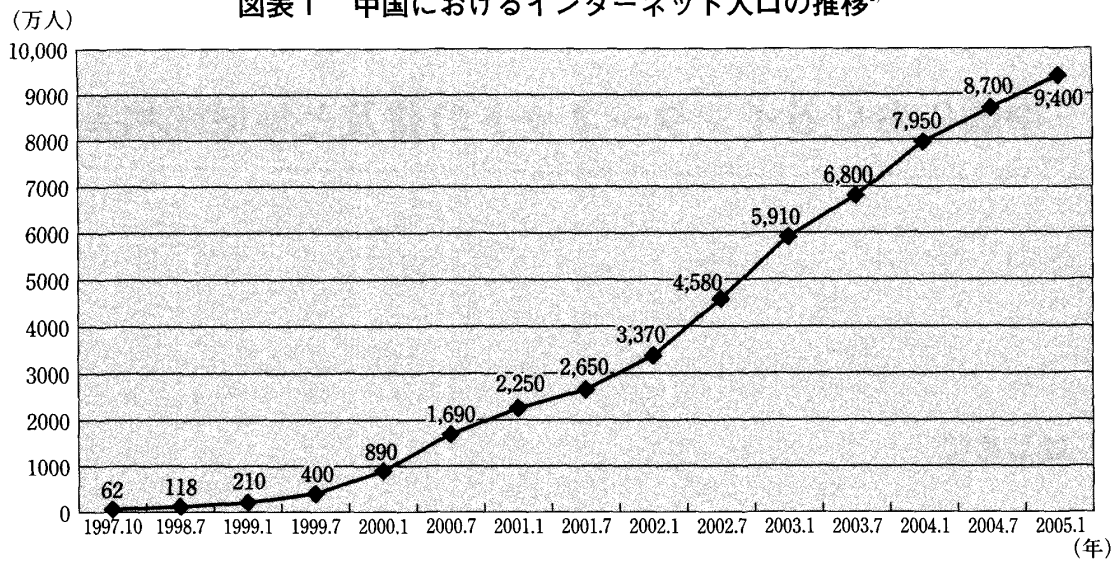
本論文では, 中国全国および各省におけるインターネット, 経済, 教育の現状を紹介し, インターネットの普及と経済・教育の関係について調べたい。

2. インターネットの普及状況

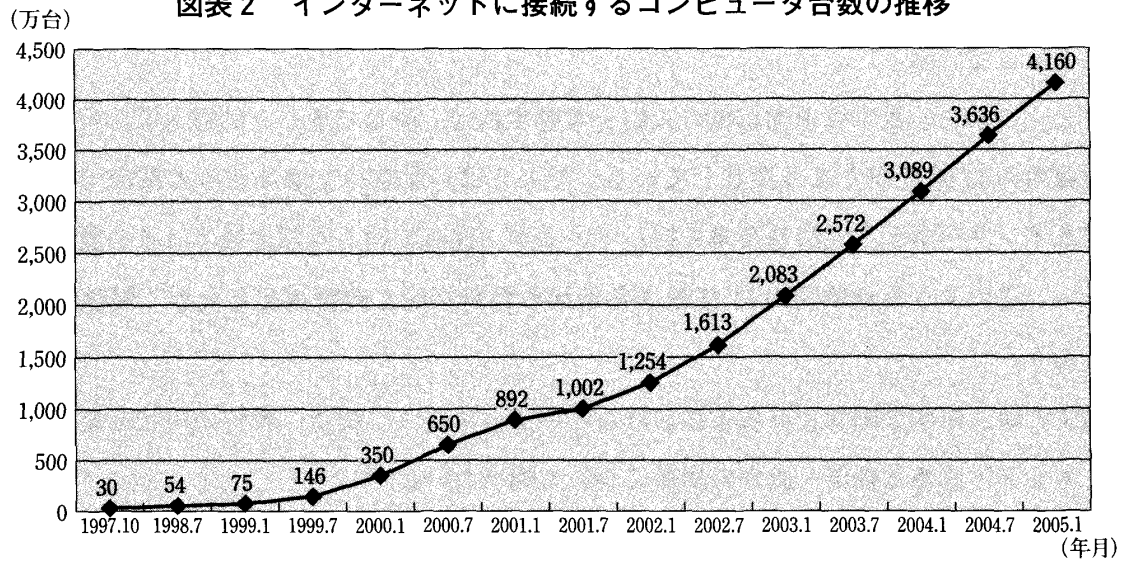
CNNICによると, 1997年10月の第1回調査の時点では, 中国のインターネット人口はまだ62万人に過ぎなかったが, 今年1月に発表した第15回の調査結果では, インターネットの利用者は9400万人に達し, 7年前に比べ実に150倍以上も増えた(図表1)。一方, インターネットに接続しているコンピュータの台数も第1回調査の30万台から第15回の4160万台まで増加し, 140倍近く増えた(図表2)。

CNNICの調査は, 第1回を除きすべて半年間隔で行われ, その結果は1月と7月に公表される。最初数回の調査では, インターネット人口と接続コンピュータ台数はその前回に比べ倍増に近いペースで増えていたが, 最近その増加率は低下傾向にある(図表3)。その原因は分母となる部分がかかなり大きくなったことによるもので, 利用者と接続コンピュータの増加数は

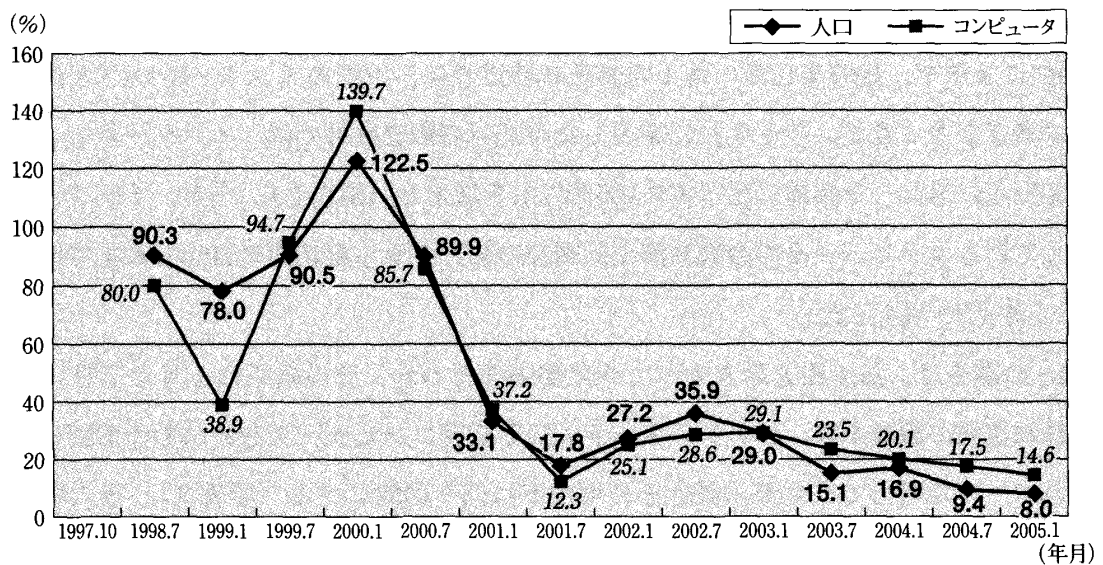
図表1 中国におけるインターネット人口の推移¹⁾



図表2 インターネットに接続するコンピュータ台数の推移



図表3 インターネット人口と接続コンピュータの増加率



ほぼ安定している。

中国におけるインターネットの人口普及率は、第1回の0.05%から第15回の7.32%まで増加した(図表4)。人口普及率において先進国に比べまだ大きな差があるが、7%台という低い普及率だけで判断したら、中国インターネットの実力の過小評価になりかねない。その中身をより詳しく調べる必要があろう。次節では各地域におけるインターネットの普及状況について考察する。

図表4 中国におけるインターネットの人口普及率



3. インターネットの格差

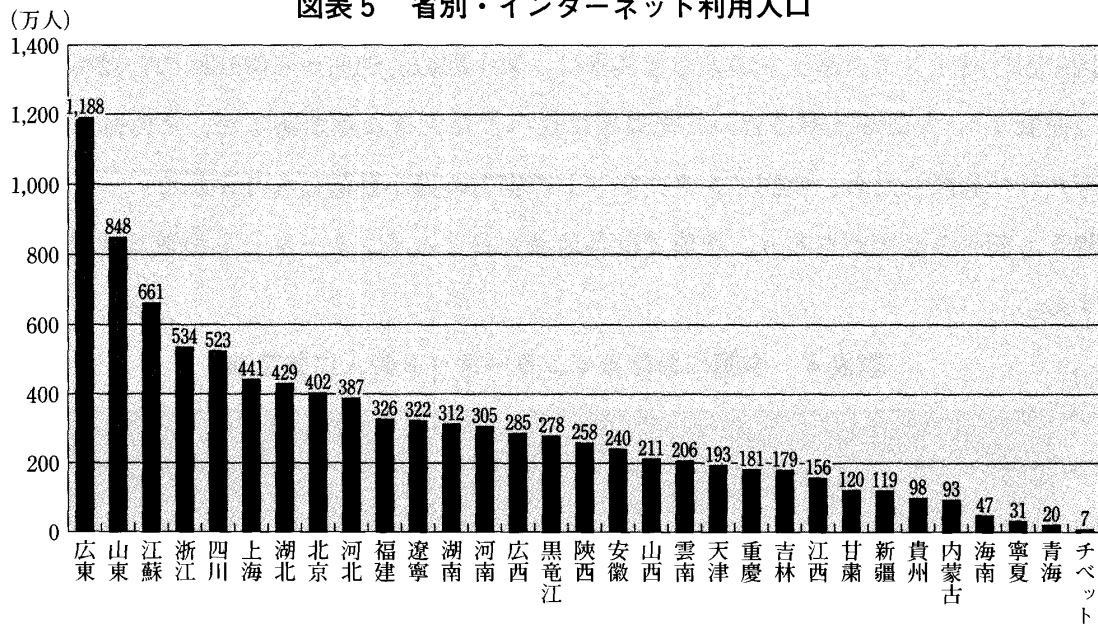
(1) 省別インターネット利用人口の状況

2004年末の時点で、中国のインターネット人口は9400万人であるが、各省のインターネット人口は図表5に示されている²⁾。インターネット人口のトップは広東省で、2位には最近成長の速い山東省が入っており、江蘇省と浙江は3位と4位に入っており、上海と北京は1年前に比べ順位が下がり、6位と8位となっている。

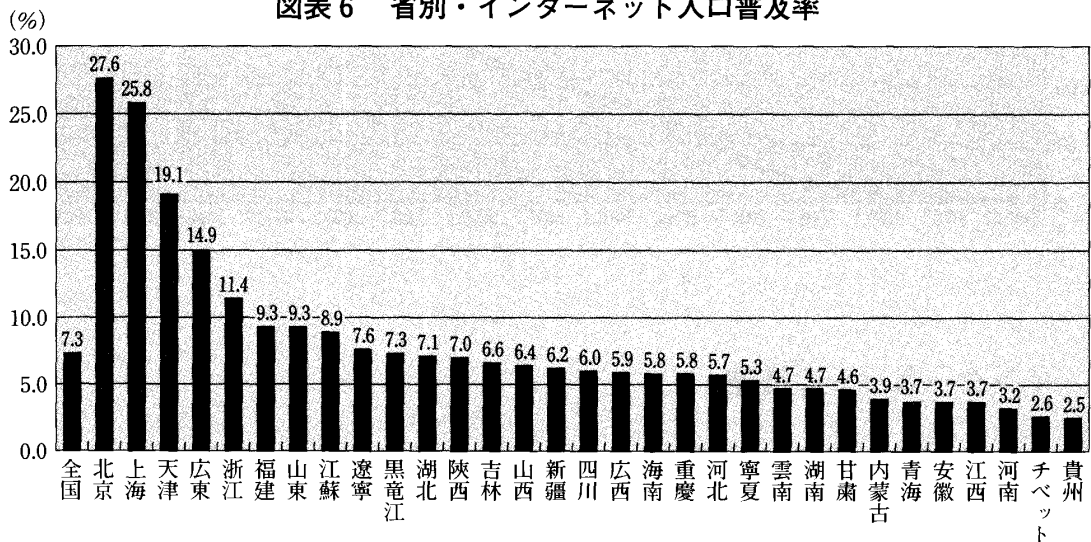
省別のインターネット人口普及率は、トップが北京で、2位と3位には上海と天津が入っている(図表6)。トップ3は都市人口が多いこの3つの直轄市で占められているのも納得できる。

中国全国のインターネット人口普及率は7.3%であり、それより高い普及率を示しているのは、北京から遼寧省までの9つの省と直轄市である。第10位の黒竜江省は全国平均と同じ7.3%となっており、残り21の省市は全国平均より低い。人口普及率トップの北京は27.6%に達しているのに対し、最下位の貴州は2.5%しかなく、11倍の格差が生じている。

図表5 省別・インターネット利用人口



図表6 省別・インターネット人口普及率



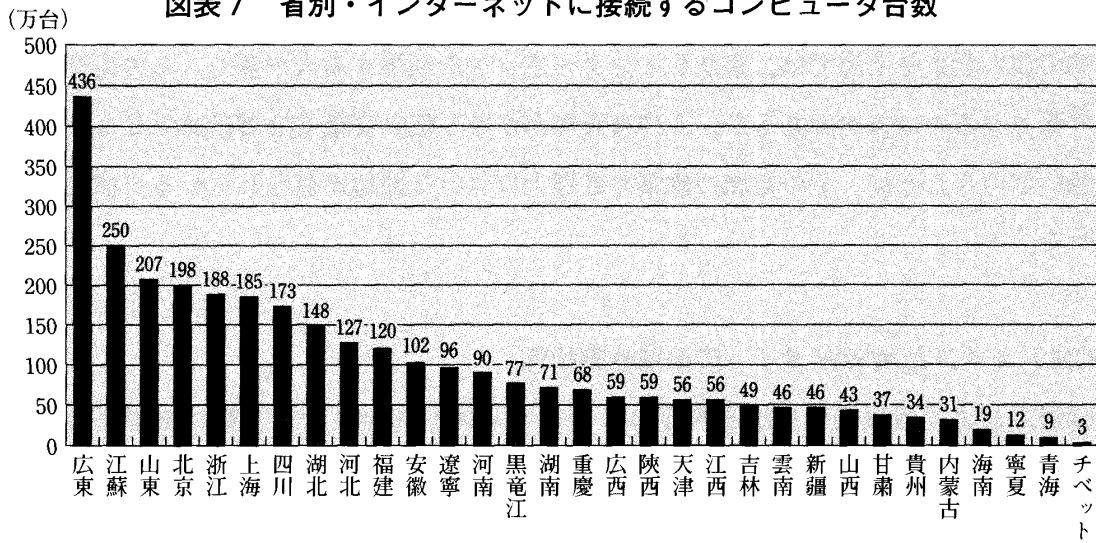
人口普及率順位の地域的分布の特徴として、上位には直轄市および沿海地域の省が入っているのに対し、下位には、中部と西部地域の省が多い。

(2) 各省におけるインターネットに接続するコンピュータ台数の状況

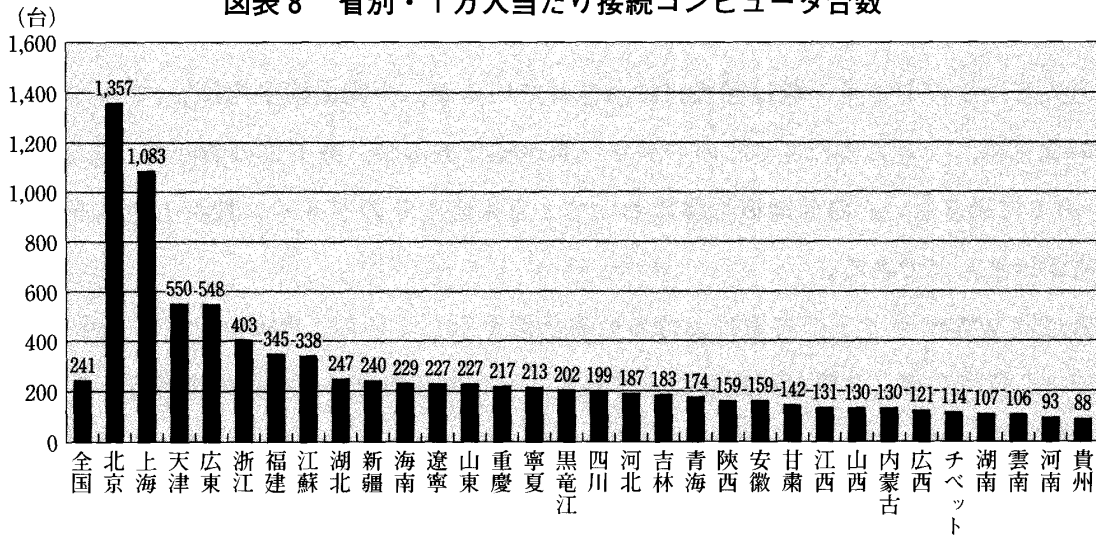
インターネットに接続するコンピュータの数はインターネットの利用人口と一定の関係を持っている。つまり、接続台数が多ければインターネットを利用する機会が多くなり、利用者も増えるのである。各省の接続コンピュータ台数(図表7)と人口で割って得られたコンピュータの普及率(図表8)の順位は、インターネット人口と人口普及率の順位とほぼ一致している。

一方、インターネット人口と接続コンピュータ台数の比率はハードウェア資源の利用率を反映できるので、それを図表9にまとめた。全国平均はコンピュータ1台あたり2.6人であるが、

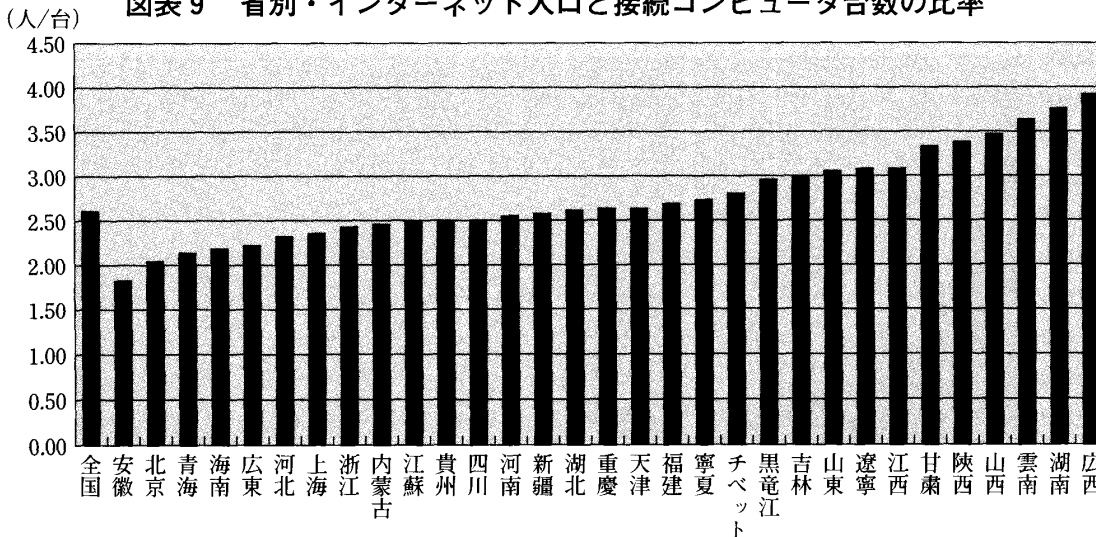
図表7 省別・インターネットに接続するコンピュータ台数



図表8 省別・1万人当たり接続コンピュータ台数



図表9 省別・インターネット人口と接続コンピュータ台数の比率



もっとも高い広西（3.9人）と最も低い安徽（1.8人）の間に倍以上の差も存在している。人口普及率の高い北京や上海では、家からインターネットを利用する人が多く、この比率が全国平均より低くなるのは自然であるが、人口普及率がかなり低い安徽省などはコンピュータの利用率が低いということは、その地域の政策や管理上に大きな問題が存在している可能性も十分考えられる。

(3) CN ドメインと WWW サイトの地域分布状況

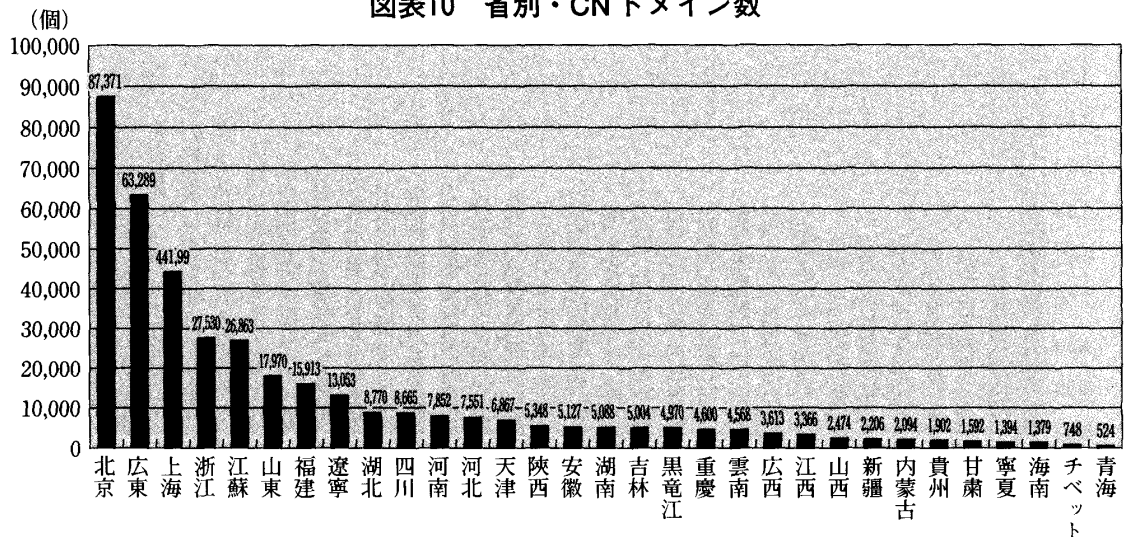
情報資源および情報発信状況を測るのにドメイン数と WWW サイト数は重要な指標である。図表10は中国 CN 管轄下のドメインの地域的分布を示している。CN の下に登録されているドメインは全部で391,890個あり、地域的に見ると、北京は最も多く、全体の2割以上を占めており、続いて広東、上海となっている。この3つの地域は他に比べてかなり高い数値となっており、3地域の合計は全国のCNドメインの半数近く占めている。

1万人当たりのドメイン数は図表11に示されているが、中国全国平均は3.1である。もっとも多い北京は、1万人当たりCNのドメイン数が60であるが、最下位の貴州省（0.5）はその120分の1に過ぎない。西部地域全体において1万人当たりのドメイン数が1個以下になっている省がほとんどである。

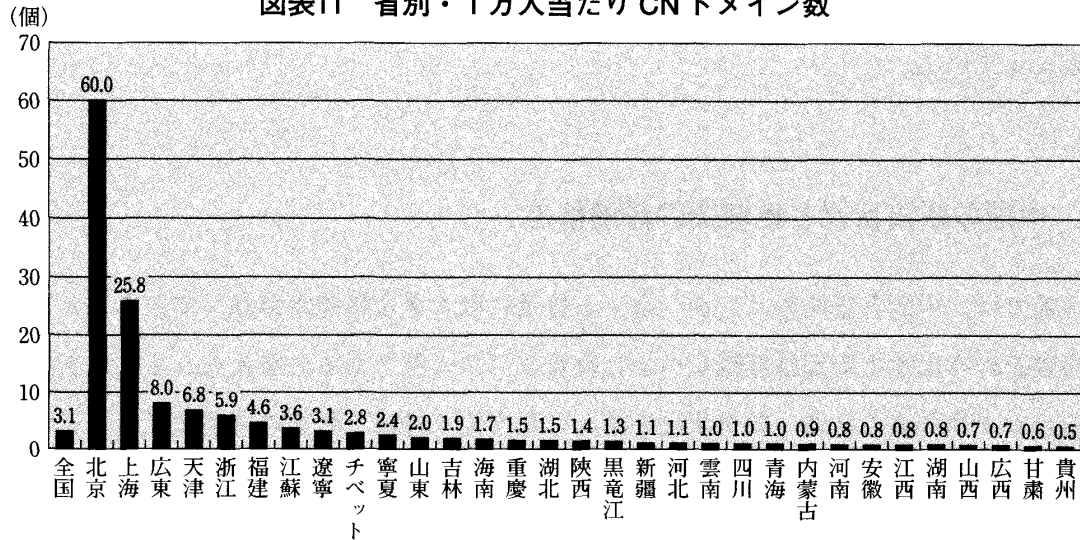
図表12は WWW サイトの各省における分布状況を示している。WWW サイト数のトップも北京で、2位は広東、3位は浙江となっており、トップ3の合計は全体の半数近くとなっている。西部地域は他の省に比べて全体的に低い数値となっており、11省の合計でも第5位の江蘇省より低い。

WWW サイト数と人口の比率で見てもその差は明らかである（図表13）。トップの北京と最

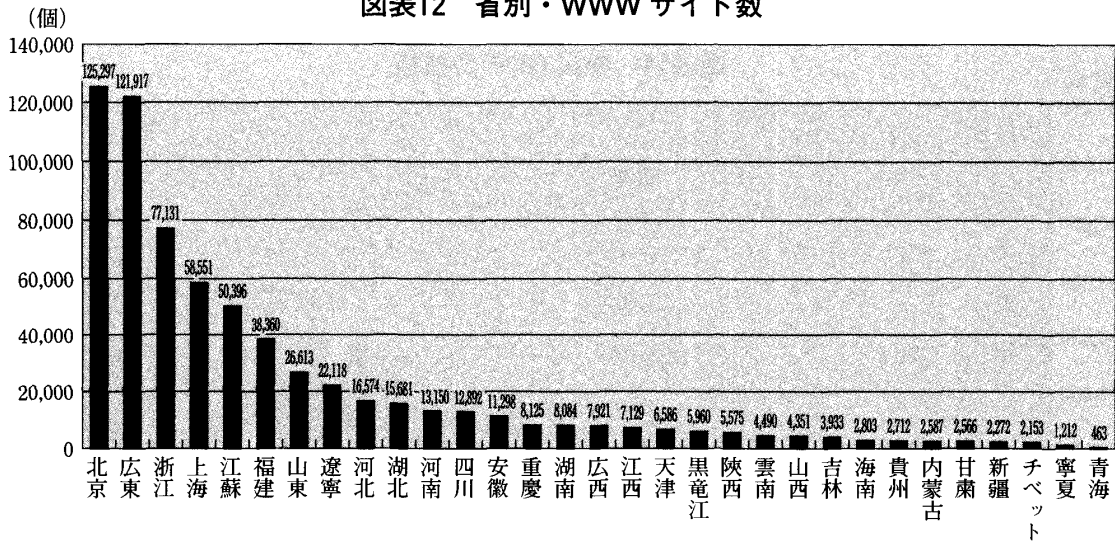
図表10 省別・CNドメイン数



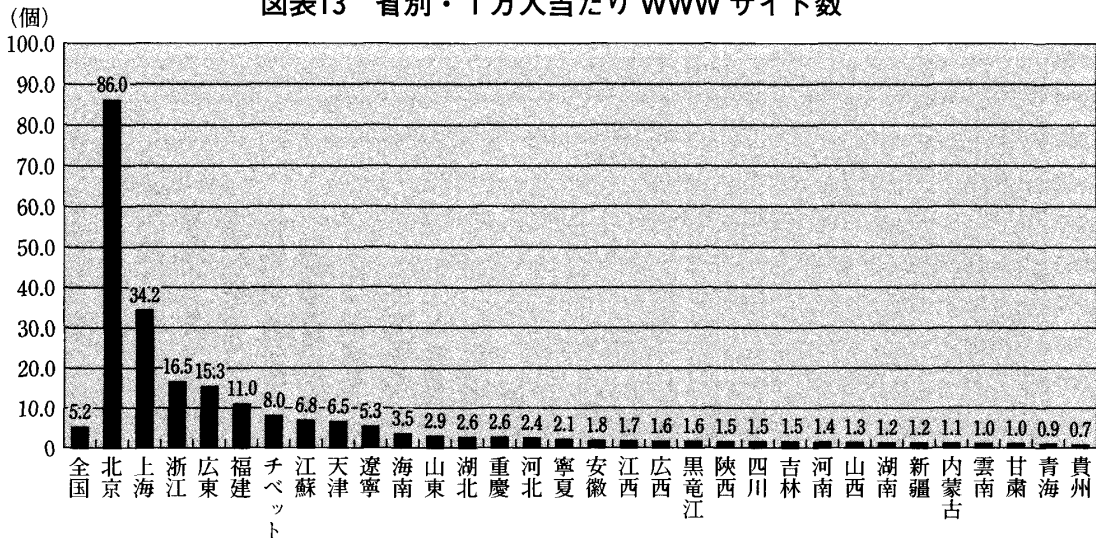
図表11 省別・1万人当たりCNドメイン数



図表12 省別・WWWサイト数



図表13 省別・1万人当たりWWWサイト数



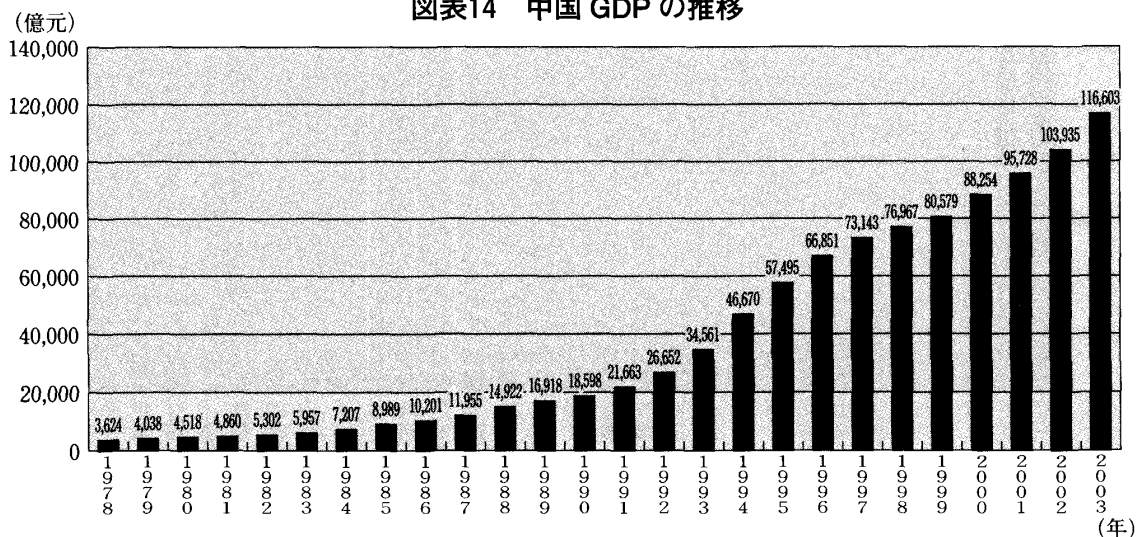
下位の貴州は100倍以上の格差があり、半数近くの省では1万人当たりのWWWサイト数は2以下となっている。

4. 中国の経済状況と地域間の経済格差

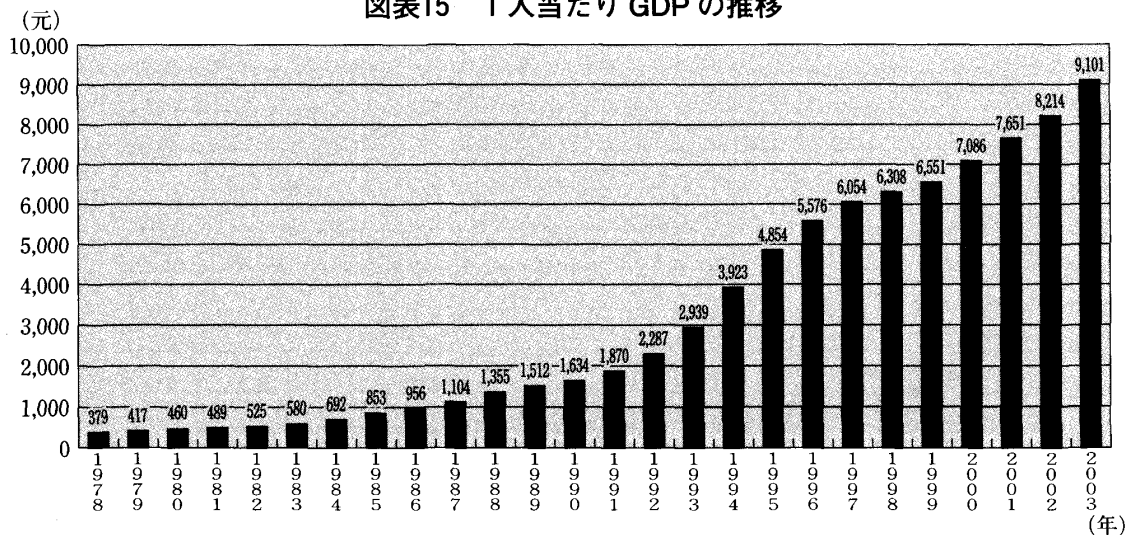
第3節では、中国各省間のインターネット普及には大きな格差が存在していることを示した。その格差を作り出す主要因は経済レベルと教育レベルの差であると考えられる。以下の節では、中国全土および各省の経済・教育状況を紹介したうえで、経済・教育の格差はインターネットの普及に与える影響について調べたい。

1978年から2003年までの25年間、中国の国民総生産は32倍も増加した（図表14）。1人当たり GDP も1978年の379元から2003年末の9101元と24倍も増えた（図表15）。

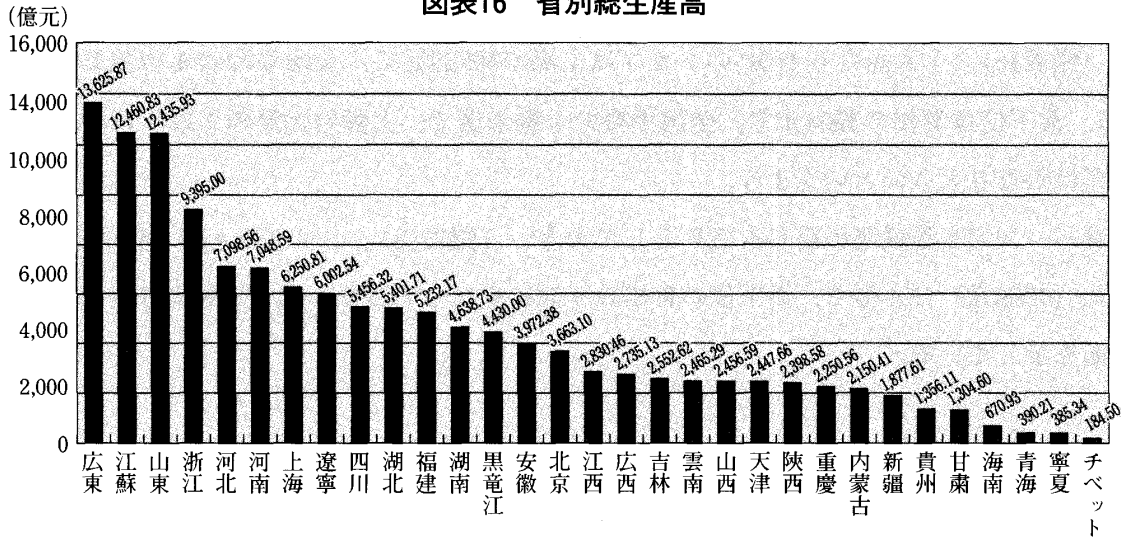
図表14 中国 GDP の推移



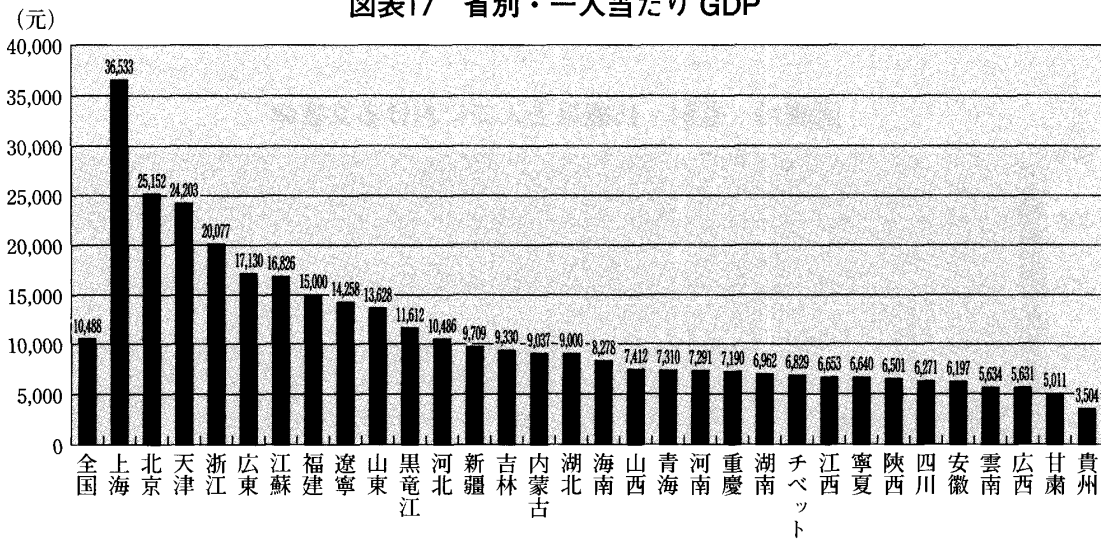
図表15 1人当たり GDP の推移



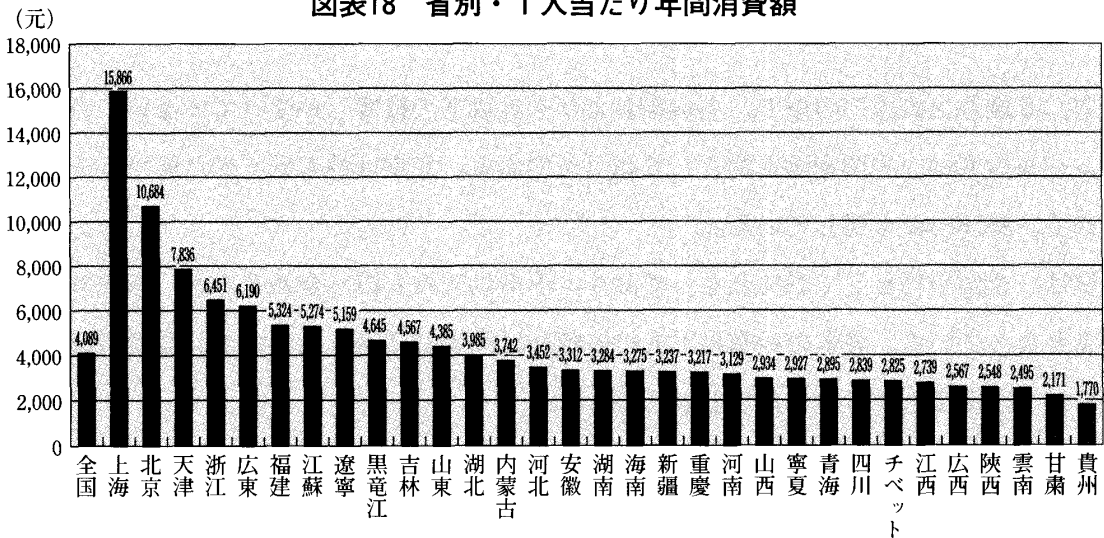
図表16 省別総生産高



図表17 省別・一人当たり GDP



図表18 省別・1人当たり年間消費額



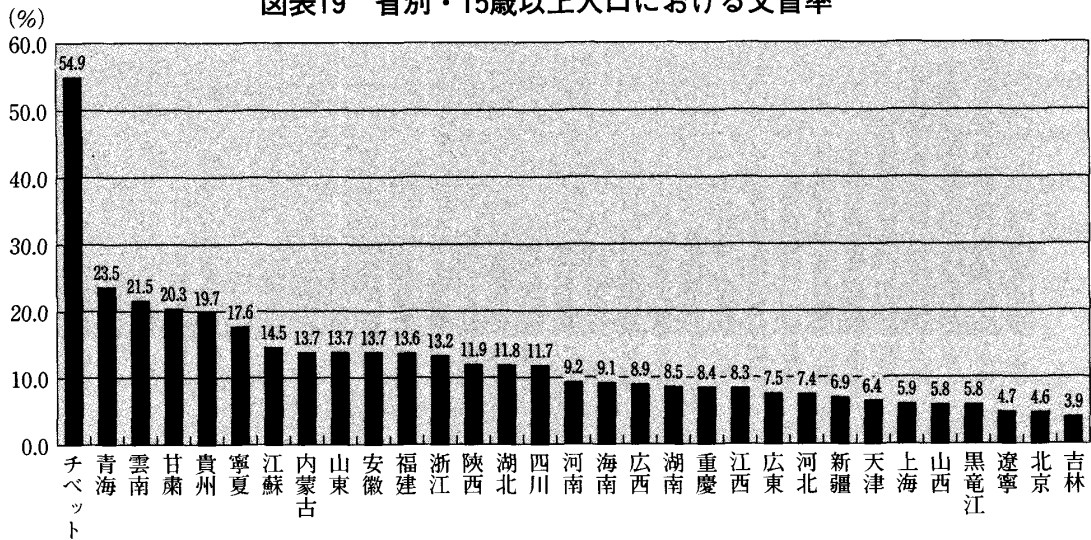
省別の総生産高として、広東省はトップで、以下は江蘇省、山東省、浙江省など沿海地域が続く（図表16）。1人当たりGDPのトップは上海の36533円で、全国平均の4倍強である（図表17）。最下位は貴州の3504円で、全国平均の4割未満で、上海の10分の1以下にすぎず、その格差はかなり大きいといえよう。

消費ベースでも地域間の格差も依然として大きい（図表18）。トップの上海（15866元）は全国平均（4089元）の4倍で、最下位の貴州の9倍にもなっており、他の地域よりかなり高い消費水準を示している。

5. 教育状況と地域間教育レベルの格差

中国では、15歳以上人口の文盲率は11%で、最も低いのは吉林の3.9%である（図表19）。西部地域の文盲率は軒並み高く、チベットは全体の半分以上も文盲である。

図表19 省別・15歳以上人口における文盲率

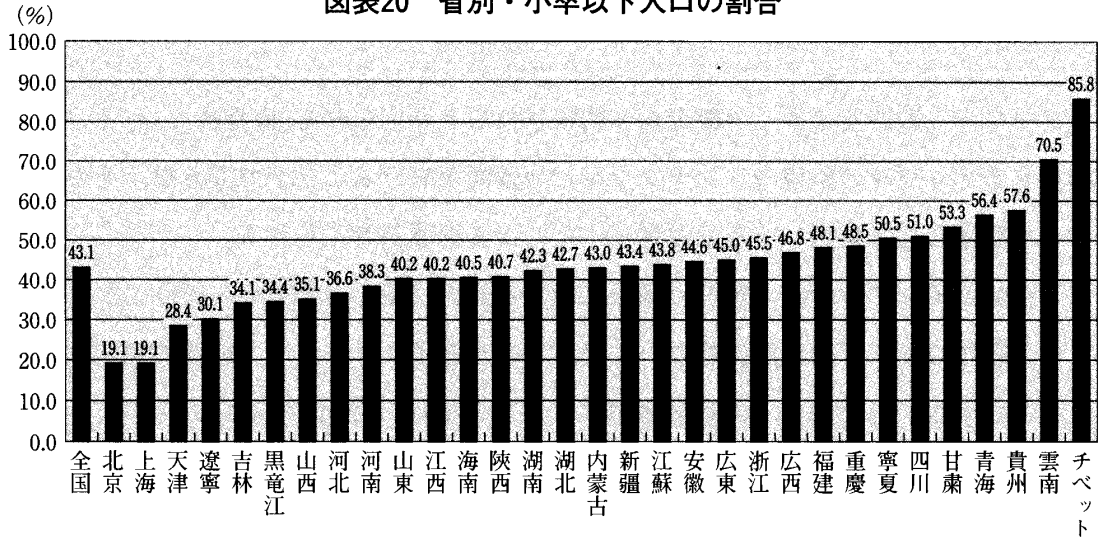


一方、6歳以上の人口の中で、小学卒およびそれ以下の教育しか受けていない、いわゆる低教育レベルの人は、中国全国平均として43.1%である。北京は最も低く19.1%で、チベットは最も高く、85.8%にも達している。

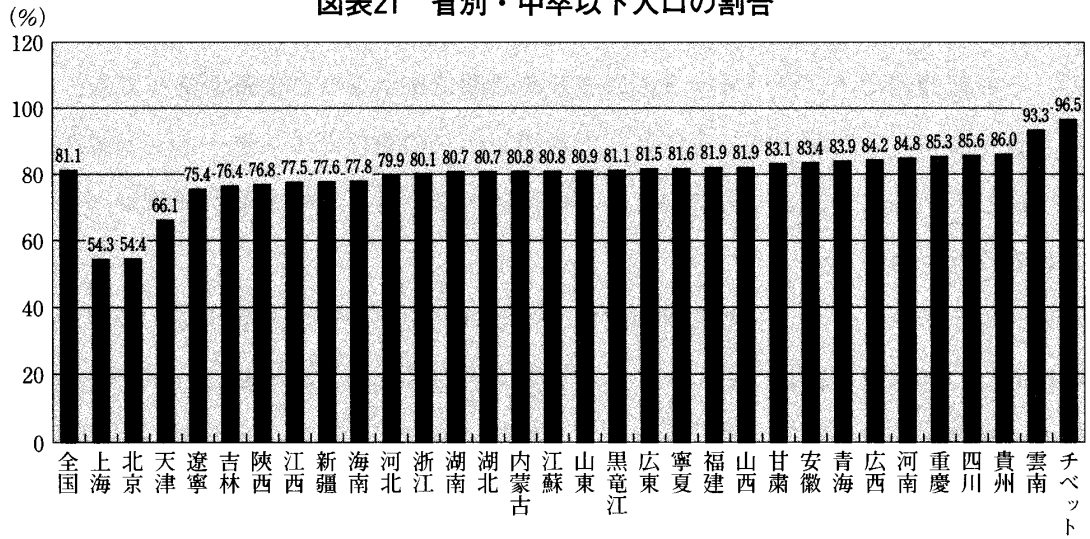
中卒は、全国平均として38%となっており、小卒以下の人口と合わせると、6歳以上人口の81.1%となっている。各省の中卒以下人口の割合は図表21に示されている。各省の教育レベルは中卒以下が主流となっていることがわかる。

高卒以上の人口は、全国平均として18.9%である。上位の上海や北京は45%以上にもなっているが、最下位のチベットは3.5%しかなく、地域間の格差がかなり大きい（図表22）。

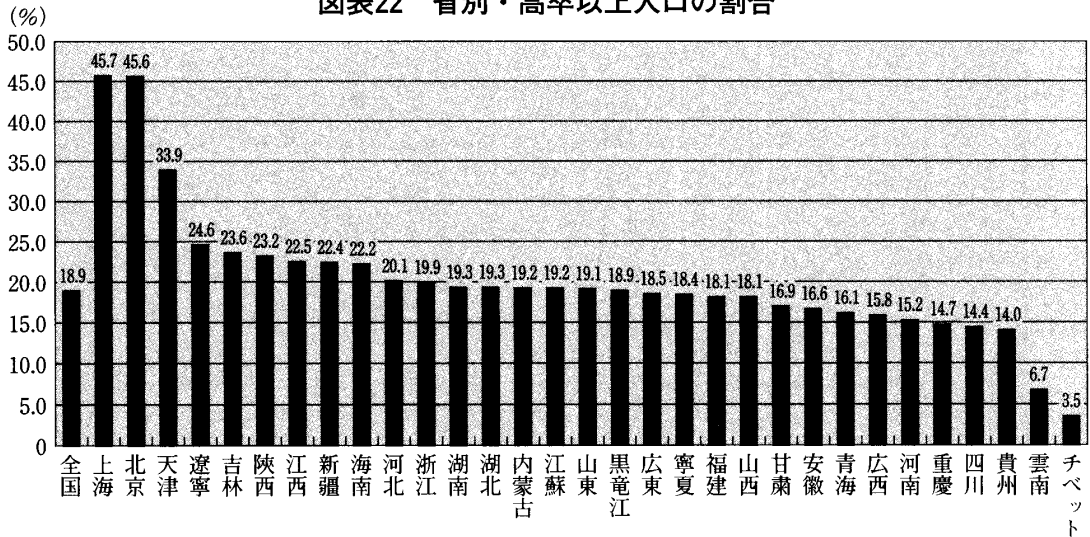
図表20 省別・小卒以下人口の割合



図表21 省別・中卒以下人口の割合



図表22 省別・高卒以上人口の割合



6. 経済・教育の格差とインターネットの普及

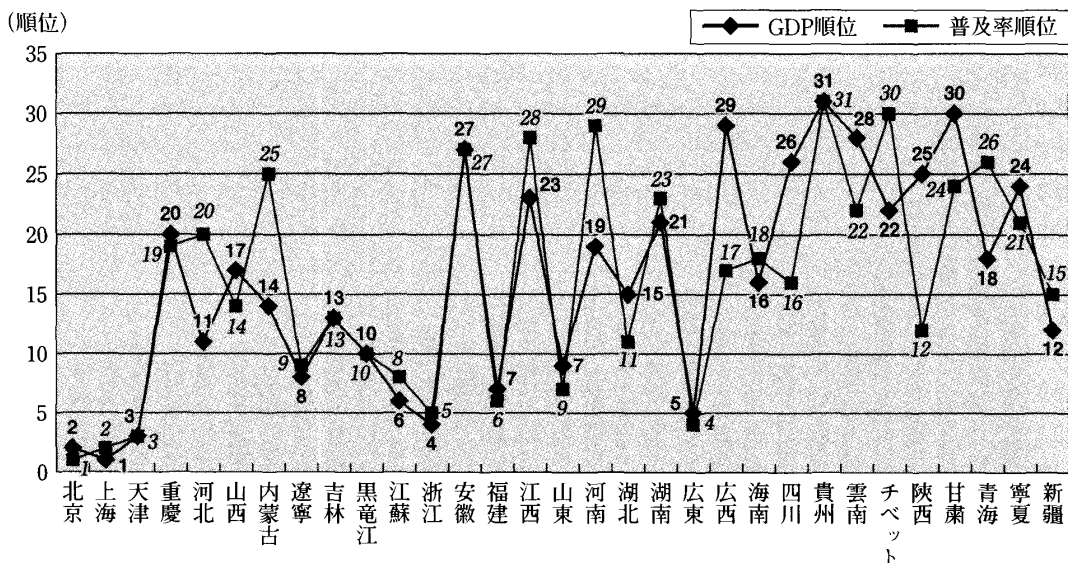
インターネットの普及は多くの要素から影響されると考えられる。直接的には、インターネットを利用するインフラの整備やコンテンツなどの要素を挙げることができるが、その背後にさらに大きな要素として経済レベルと教育レベルによる影響が考えられる。

経済レベルとインターネット普及の関係に対する分析は多くの側面から行うことができるが、ここでは、各省のマクロ的状況に基づいて経済レベルとインターネット普及の傾向性について調べることにする。具体的に、中国各省の1人当たりGDPの順位とインターネット人口普及率順位を比較し、その相関性を調べる。

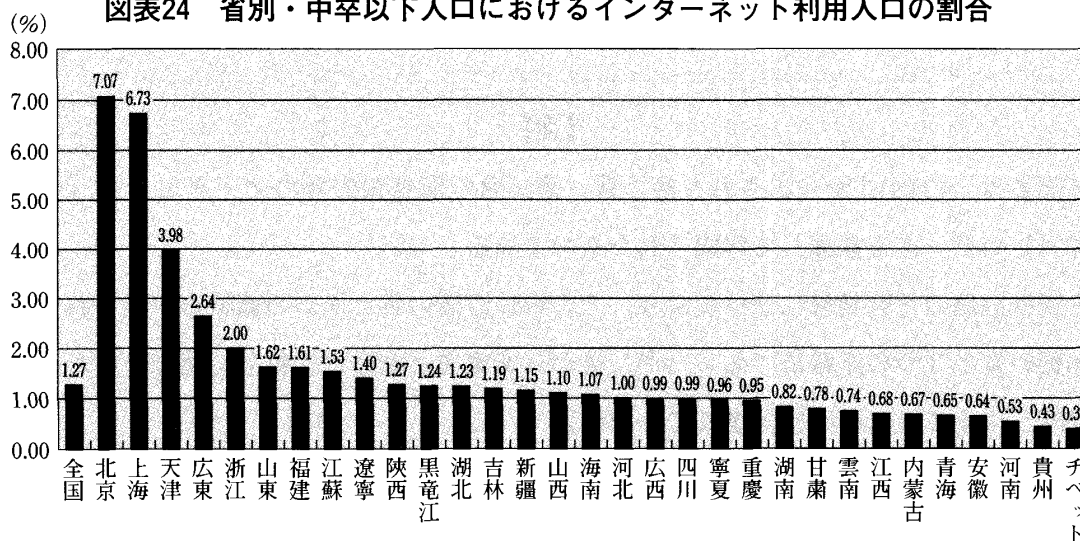
図表23を見ればわかるように、3分の2の省は一人当たりGDPの順位とインターネット人口普及率の順位はかなり一致している。順位の違いが6以上の省は10個あり、河北と河南省を除けば残りの8省はすべて西部に位置している。西部各省の間は経済格差がそれほど大きくないので、その範囲内でインターネット人口普及率の順位がかなりの変動があっても、実質的なずれは大きくない。したがって、全体として経済レベルの順位とインターネット普及率の順位はほぼ一致しているといえよう。このことから、インターネットの普及が経済レベルに大きく左右されることがわかる。

教育レベルとインターネット普及率の関係は中卒以下のグループと高卒以上のグループに分け、それぞれのグループにおけるインターネットの人口普及率で調べることができる。図表24は各省の中卒以下人口におけるインターネット普及率を示している。このグループにおいて全国平均の普及率は1.27%しかなく、全人口普及率の7.3%に比べてかなり低い。

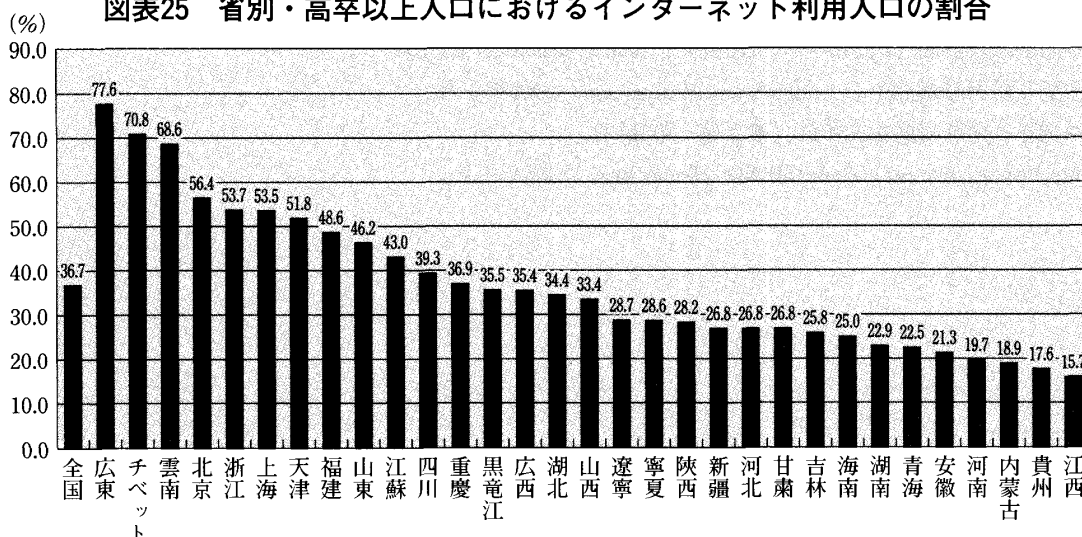
図表23 省別・一人当たりGDP順位とインターネット人口普及率順位の比較



図表24 省別・中卒以下人口におけるインターネット利用人口の割合



図表25 省別・高卒以上人口におけるインターネット利用人口の割合



一方、高卒以上のグループにおけるインターネット人口普及率は図表25のようになっている。このグループの全国平均普及率は36.7%であり、全人口普及率の5倍以上にも達している。このことはインターネットの普及は教育レベルに大きく依存することを示した。もちろん、教育レベルと経済収入にも相関関係が存在しており、経済と教育レベルによる影響を厳密に分けて考えることが不可能である。

6. おわりに

今回、CNNICの調査と中国統計年鑑などのデータを中心に、中国におけるインターネットの普及状況と地域間の格差について紹介したうえで、その格差を作り出す主要因である地域間の経済格差と教育格差との関係について調べた。これからもインターネットを含め中国のIT化

状況について紹介し、研究していきたい。

【注】

1) 各図表は、CNNIC から出された第1回－第15回の調査報告書のデータおよび『中国統計年鑑2004』のデータを整理して作成されたものである。

2) 中国は31個の行政地域に分けており、その中に27個の省と4つの直轄市が含まれる。もともと26個の省と3つの直轄市であったが、後から海南省と重慶市は新しく追加された。なお台湾、香港、マカオはこの中に含まれていない。

【参考文献】

- 1) 中国国家统计局『中国統計年鑑2004』, 2004年。
- 2) 中国国家统计局『2000年第五次全国人口普查主要数据』, 2001年。
- 3) 中国互联网络信息中心: <http://www.cnnic.net.cn/>, 2005年1月。
- 4) 中国互联网络發展状況統計(第1回－第15回)
<http://www.cnnic.net.cn/index/0E/00/11/index.htm>, 2005年1月。